

令和3年6月30日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄



す 住 み よ い げん き な 緑 の 郷 大 草 野  
みどり さと おお くさ の

## 泥んこになりながら・・・実りの秋に期待…！

5年生が田植え体験をしました！ 6月17日（木）



前日までの雨はやみ、太陽が顔をのぞかせる空模様になり、ちょっと暑くなりました。田植足袋を履いてグラウンドに集まった児童達は、田植え指導をする宮崎会長を



はじめとするコミュニティのメンバーにあ

事務局長が独断で選んだ「田植えチャンピオン」

小林 蒼空君 と 山口 心暖さん

いさつをして、いよいよ田んぼに入りました。

18人の5年生が、前半と後半の2組に分かれて苗を植えました。最初のうちは思うように足が動かず、田んぼに倒れ込む子も数人いましたが少しずつ慣れて、田植えする時間は40分程度で終了しました。子どもたちの感想では、初めての経験が楽しかったこ



と、秋になってたくさんのお米ができて欲しいとの言葉がありました。5年生の皆さん、お疲れ様でした！ さつま芋とどちらも、収穫を楽しみにしましょうね！

## ホタルよ光れ、飛べ！

## 今度こそは！の願いを込めて！ 4年生22名が幼虫を放流

（6月18日：金曜日）

ちょうど児童達が人工小川に到着する頃、小さな雨が





降り出してきました。あいさつは必要最小限にして、さっそく人工小川に沿って並び、蛍の幼虫と幼虫のエサになる川ニ



ナを放流しました。「来年は大人になって、きれいな光のかがやきを見せてください！」と祈りながら放流しました。コミュニティでも、昨年の轍を踏まないように、蛍の里再生事業実行委員会でしっかり人工小川を見守っていこうと思います。

引き続き **<生態学習>** **ホタルの幼虫を顕微鏡で見たら？！**



「ゲッ！！」と、顕微鏡をのぞきこんだ児童の中から声がしました。他にも肩をすくめる女の子も。

肉眼では、ほぼ黒い小さなゴミのようにしか見えていないものが、顕微鏡を覗いてみると、ムカデか毛の生えた芋虫のような、初めて見た児童は気持ちが悪かったと思います。初めて幼虫を見たと言う校長先生も、顕微鏡の中のモンスターにしばらくフリーズ！！

児童達は、講師の一ノ瀬顧問の話の、ホタルの不思議にしっかり耳を傾けていました。この子たちの放流した幼虫が、来年こそは成虫となって、闇の中でキラキラ光る希望のかがやきを放ってほしいと願います。

◇◇みんなで、ガードレールをきれいにしましょう！◇◇

清掃実施日：8月1日（日）8時から1時間程度

…この日に実施できない区は、この日の前後の日曜日でご計画ください。…

この事業は、子ども達と一緒に公共の場や施設を清潔にすることで、それらが明るくなること、安全になること、そして仲間作りができること、などを子ども達が体感し、結果として地域生活全体が楽しくなることを学ぶための一つの手段になればいいと考えています。

例年、コミュニティで行っていた年3回のうちの清掃活動の1回をこの活動に振り替えるものです。

それぞれの身近な環境を、清潔で美しい状態にして、笑顔があふれる地域にしたいと思います。

〈編集後記〉

「試行錯誤」すること・・・

もう昔のことですが、就職したばかりの若い職員から、「マニュアルがあったら便利じゃないですか？」と言われ、なるほどと思いつく範囲でマニュアルを作成しました。しばらくは文句もなく過ぎましたが、マニュアルに書いていないことが発生すると、マニュアルに無いから分からない、できない、そして、ついには不備なマニュアルが悪い、と突つかれました。

最近、更に世の中が進化してきて、分からないことは全て「検索」で解決できる。だから、試行錯誤もあまりしなくなり、自分の頭脳で一から考える時間がとても少なくなっていると思います。

テレビが普及し始めた頃、評論家の大宅壮一氏が「一億総白痴化」と言ったが、言い当てているように感じますし、さらに進んでいるように思えます。

私は、試行錯誤することを習慣化するためには、自分でテーマや文字数を決めて文章を書いてみるのが一番の近道だと思っています。「自分がいま思っていることを一番的確に、正確に表現できる言葉を探す」という模索を繰り返すうちに、じっくり考えるという基礎ができるものではないでしょうか？

